

猿 橋
小学校

瑛 玖 良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

大きな支え

校長 澁谷 一男

梅雨入り後、作物にとっての恵みの雨はまだほとんどない。畑の水やりから戻ってきた子どもの手にはミニトマトが3個となすが2本。かわいい手からこぼれ落ちそうな「大収穫」に、満足げな笑顔。



今、教員の「残業」が話題となっている。今年4月、文部科学省が昨年度の教員勤務実態調査結果を公表した。国が示す過労死ラインに達する週20時間以上の「残業」をした教員は、小学校33.5%、中学校57.7%で、いずれも10年前の前回調査より増えているという。あえて、「残業」という言い方をしたが、実は教員の時間外勤務はかなり限定されていて、ほとんどの仕事は「残業」には当たらない。子どもたちのために「自主的、自発的」に行われているとみなされているからだ。

当校の職員も朝早くから夜遅くまで仕事をしている者が多い。子どもたちのために、惜しみない精一杯の愛情を注ぐ職員の姿は、私の誇りだ。しかし、一方で、この勤務実態を何とか改善したいという思いもある。子どもたち一人一人にしっかりと向き合い、行き届いた教育を行う。且つ、教職員が健康で働き続けることのできる職場環境を整える。このことを両立するにはどうしたらよいか。問題を抜本的に改善するには、教職員の数を増やすしかないと思うのだが…。しかし、事はそう簡単ではない。子どもの数が減るのに合わせて教職員の数を減らしたい財務省とそれを阻止したい文科省。国の予算編成の時期になると毎年繰り返される綱引きだ。これでは教職員の大幅増員は見込めない。

そんな折、舟入町2丁目の町内会長さんがおいでになった。学区内の各地域で行われている登下校の見守りを自分の町内でもやりたいというお申し出だった。早速、他の町内と重ならない曜日で下校時の見守りを計画してくださった。

子どもたちは、多くの地域の皆様に、様々な場面でお世話になっている。ありがたいことだ。今後、学習支援をはじめ、一層積極的に学校の教育活動にかかわっていただけたら、こんなにうれしいことはない。教職員は増えなくとも、学校を支えてくださる大きなマンパワーがここにある。保護者・地域の皆様と共に、子どもたちを見守り、支援し、成長の喜びを共有する、そんな学校でありたいと思う。

今朝も全校の子どもたちが真剣に朝学習に取り組んでいる。解いているのはまとめのプリントか。夏休みも近い。